



まさつすると、どうして火がつくの

おおむかしからまさつの力を利用

おおむかしから、人々は自分たちで火をおこす工夫をしてきました。はじめは、もえやすい木や草をよくかわかし、こすることによってできる「まさつ熱」で火をおこしました。

ものともものがこすれあうと、熱が出ます。電車がブレーキをかけるとき、火花を出したり、マッチをすると火がついたりするのも、「まさつ熱」のしわざです。このまさつ熱はものをこするという運動エネルギーが、熱にすぐたを変えたものなのです。

ものがもえるのには、酸素が必要

ものは、まわりに空気がなければもえません。それも、空気の中にふくまれている酸素が、ものをもやすはたらきをもっているのです。

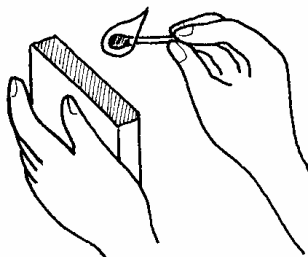
酸素は、空気の中に5分の1ふくまれています。

まさつ熱で熱くなった木から、白い気体が出て、その気体と酸素がむすびついて、木がもえだすのです。(監修 小川 格)

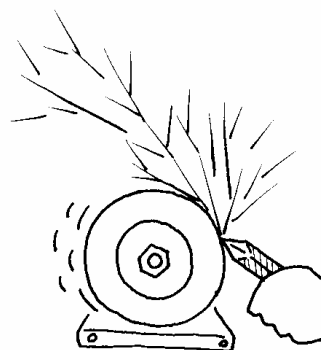
●まさつ熱



●まさつ熱で火をおこす。



●マッチもまさつ熱で発火。



●研まで出る火花。

